

# 日蓮聖人門連だより

発行  
日蓮聖人門下連合会  
〒146-8544  
東京都大田区池上1-32-15  
電話 (03) 3751-7181

平成28年2月16日  
第53号

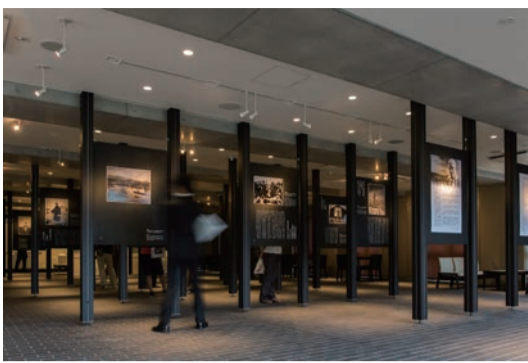
## 【本門佛立宗 宗派の活動】

### 生きてた仏教を伝える

■平成二十九年、佛立開導  
日扇聖人ご生誕二百年に  
向けて

本門佛立宗では、平成二十九  
年に佛立開導日扇聖人（ご在世  
には「長松清風」として活動）  
のご生誕二百年を迎えます。

文化十四（一八一七）年にご  
生誕の日扇聖人は、江戸末期に  
あつて檀家制度を批判。葬儀や  
仏事、宗門の行政にのみ追われ  
る僧侶ではなく、大衆の中にあ  
つて衆生救済を目的とする「生  
きた仏教」、「真実の出家」を目  
指し、安政四（一八五七）年に  
法華宗内に「本門佛立講（のち  
に独立して本門佛立宗）」を組



「トランクの中の日本展」の様子

織しました。日扇聖人にとって「生きてた仏教」とは、難解な経文や高尚な哲学ではなく、生きていく人々の苦しみや悩みを取り除き、幸せに導く教えであるはずでした。そして何よりも「南無妙法蓮華經」の御題目には、それを受持する者の「信力」とあわせて、目の前にある生老病死の苦しみを乗り越えさせる経力があつたと確信していました。だからこそ日扇聖人はあるときは僧形、あるときは在家と姿を変えながら、「現証の御利益」を重視して民衆を教化し続けました。そして四、五名の信徒とともに開講した本門佛立講は、明治十四（一八八二）年の日蓮大士六百回御遠諱には全国から一万五千人余りの参詣を集めました。そんな日扇聖人は、のちに「幕末維新の仏教改革者」と呼ばれるようになります。

しかし、日扇聖人がどのような仏教改革者であろうとも、現代の私たちがその思いを受け継いでいなければ意味がありません。改革を起こした組織も時代の変遷を経て、既成仏教化や信仰心の低下、墮落や怠慢が起こ

りえます。本門佛立宗ではその仏教改革者、日扇聖人のご生誕二百年をお迎えするのを契機に、「生きてた仏教」がいま実践されているのか、それを確かめ、また改良しようとしています。

そのために、私たちは平成二十四年から「佛立開導日扇聖人ご生誕二百年慶讃 佛立開化運動」を展開しています。その中で、五ヶ年の誓願として「教化誓願一、八三三戸」、「正宗徒増加誓願八、〇五三戸」、「役中佛立ミュージアム（京都府京都



展示された『立正安国論』（複製）

八四四人」を打ち立てて現在活動中です。また、平成二十八年十月から平成二十九年十月の一年間をかけて、本山宥清寺（京都市上京区）において「佛立開導日扇聖人ご生誕二百年慶讃本山法要」を四回奉修いたします。「生きてた仏教」とは何か。何のための信心か。本門佛立宗は今回の慶讃ご奉公において、教化・折伏・菩薩行、不自惜身命という日蓮聖人、日扇聖人を貫く精神に立ち寄り、思いを受け継ぐご奉公をさせていただきま

## ■終戦七十年記念の活動

平成二十四年、本門佛立宗は  
本山・宥清寺のほど近くに京都  
佛立ミュージアム（京都府京都



幕末の仏教改革者 日扇聖人

市上京区御前通一条上る東堅町一〇〇）をオープンいたしました。様々な視点から仏教との接点を読み解く企画展を中心に、仏教に対する見方が変わる、仏教が面白くなる、そんなミュージアムを目指しています。

人であった日扇聖人らしく、ユーモアとアイロニーに富んでいます。この企画展は二千五百人を超える来館者を集め、また新聞・テレビなど多くのメディアによって取り上げられました。

現在も開催中の「終戦七十年特別展示 トランクの中の日本（戦争、平和、そして佛教）」は、終戦直後の日本を米軍従軍カメラマン、ジョー・オダネル氏が撮影した写真を展示したものです。また同時に仏教コーナーを設置し、仏教・法華經の視点から捉える戦争と平和について展示しました。サンフランシスコ講和会議において積尊の言葉を用いし、日本への賠償請求権を放棄したスリランカのジャヤワルダナ蔵相（当時）の演説原稿、宮沢賢治が日露戦争の徴兵検査について父にあてた手紙（二般初公開）、日蓮聖人の『立正安国論』（複製）など、貴重な資料も展示されたこの企画展は、五千人を超える来館者（平成二十七年十二月現在）を集めています。

京都佛立ミュージアムでは、これからも斬新な切り口で仏教を伝える展示を行っていきたいと考えています。

## つゆじゆ地從

◆昨年は戦後七十年の節目ということでもマスコミでは多くの特集が行われ、各地で追悼行事が行われました。四月の天皇皇后両陛下のバラオご訪問や八月の安倍首相の「戦後七十年談話」などは記憶に新しく、終戦記念日の全国戦没者追悼式での天皇陛下による「戦争による荒廃からの復興、発展に向け、私われた国民からの弛みない努力と、平和の存続を切望する国民の意思に支えられ、我が国は今日の平和と繁栄を築いてきました」と「さきの大戦に対する深い反省と共に、今後、戦争の惨禍が再び繰り返されぬことを切に願ひ、全国民と共に、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、心からなる追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります」とのお言葉は、先の戦争への反省を糧に平和を存続させることの尊さを改めて感じさせると共に、戦争で奪われた三百万人の尊い命への感謝と追悼の気持ちを込めざるを得ません。

◆このような政治の動きに賛成するにせよ反対するにせよ、将来開導した政治家によって、日本が再び戦争を起こしたり巻き込まれるようなシナリオが成立しないように、しっかりと議論を尽くして欲しい。そして世界中で起こっている怒みの連鎖に、日本が巻き込まれることのないよう、切に願うばかりです。

◆日蓮聖人の「汝須く一身の安堵を思はば先ず四表の静謐を禱る者歟」のお言葉は、我々自身の安心を求めるならば、社会・国家・世界の平和安定をまず祈らなければならぬと共に、そのためには我々一人一人がしっかりと目を開いて、「速やかに実乗の一善に帰」さなければならぬと心得ることが必要です。

◆五年後に日蓮聖人御降誕八百年の佳節を迎える日蓮聖人門下は、これから心を一につけて、社会に向けて平和への祈りの声を上げて示していかなければなりません。

(田)



《各派のページ》第九回 「日本山妙法寺宗門内外で活躍する僧侶」



日本山妙法寺僧侶

佐藤達馬さん

南無妙法蓮華經

■ネパールと日本の立正安國を祈念して

二十六歳から三年間、アフリカのザンビア道場にてご修行させていただき、二十九歳の時に、ネパール国ルンビニ道場にて、藤井日達聖人様の末弟として得度させていただきました。

プロフィール  
さとう たつま  
一九七〇年生まれ。  
秋田県出身。四十五歳。  
ネパール国ルンビニ道場。

かかったことがない末弟ですが、出家を決断するきっかけとなったのが、藤井日達聖人様のお姿を夢の中で拝したことでした。御師匠様のお姿は、お写真でしか拝見していませんが、その夢の中で私は、はっきりと「御師匠様」と呼ぶことができました。今でも不思議に思いますが、以来、御師匠様はいつでも私たちにそばにいらつしやるように感じております。

度々させていただいてより、しばらくはルンビニ仏舎利塔建立工事のお手伝いをさせていただいて待っていてくれるようになり



ネパール大地震の被災地カトマンズ市内を慰霊行脚する佐藤上人

ました。たくさんの子供たちのお題目と笑顔が、私たちの元気のもとです。このルンビニ園での街頭修行を基本として、私は年に一度、ネパール国内をくまなく行脚してまいりました。

貧しかったのですが、たくさんお世話を受ければ受けるほど、このネパールが好きなになり、この人たちのために真剣に祈らせていただきたいという思いが強まってまいりました。その後、ネパール国は二〇〇六年に王政が崩壊し、政府と Maoist (武装集団) の和平交渉が成立し、暫定連立政権が歩み始めました。

として憲法九条護憲を訴え、東日本大震災慰霊として東北地方を巡り、原発反対の祈念として全国を巡ってまいりました。現在も成田道場の法尼様が中心となつて継続してくれております。

いたしておりました。この仏舎利塔建立の土地が決まるや否や、今年の四月、ネパール国に大地震が起こりました。私は、すぐに被災地まで慰霊行脚すると同時に、しばらくの間、物資の支援活動をさせていただきまし



日本山妙法寺僧侶

鳴下祐一さん

南無妙法蓮華經

■今立正安國論行動の時

私は東京生まれで、十八歳まで東京で育ちました。すべてが型にはまった学校が好きになれず、大学には行きませんでした。しかし、海外に行く道を両親の理解と援助のもとに得、世界各地のさまざまな人間の価値観に出会い、自身の生き方を考え直す機会を得ました。

そんな折、八カ国目となるインドを旅している時に、日本山妙法寺とのご縁をいただきました。二〇〇七年に清澄山で出家得度をさせていただき、約七年間、

プロフィール  
かもした ゆういち  
一九八三年生まれ。  
東京都出身。三十二歳。  
沖縄・辺野古道場。

インド・ラージギル(王舎城)などでご修行するご縁を得ました。二〇一三年、日本に帰国し、福島、広島、長崎をはじめ、平和行進で日本各地を歩く中、沖縄との出会いを得ました。

たちは、本土の人間に比べて自治への想いが強いのです。今、世界の多くの国々が経済成長という思考の「奴隷」になりつつあり、国民の利益を図るはずの国家が、企業の利益を図るものとなってしまっています。

に異を唱えることができずに迎合し、傍観を決め込んでいるように見えます。日蓮大聖人様が他の祖師と違うのは、立正安國・国家諫暁の菩薩行の有・無にあるのではないかと思います。

争いに兵隊・物資などが送られまされた。日本は敗戦以降、戦争放棄、軍隊不保持の憲法を授けられた。しかし、日米軍事同盟や国際的な経済活動などで、間接的に戦争に加担し、または経済後進国を搾取し、貧困の連鎖を生んできました。

本という国家によって行われてきました。それは、目に見える形では福島に現れ、沖縄に現れさらには日本国内の貧困の増大となつて現れてきています。

本来、衆生が仏僧に求めることではないでしょうか。教えは言葉の中にあるのではなく、行動の中にあるはず。何もとりえない凡僧の己に無力を感じることが多々ありますが、それでも、海の前こう、遠くの地で、私の目の前にある基地の存在によって殺されていく人たちがいることを知ってしまった今、傍観するという選択



沖縄・辺野古米海兵隊キャンプ・シユワフゲート前で新基地建設反対で座り込み祈念を続ける鳴下上人

苦しみ、より良い道を見出して行けば、おのずと仏教は、世界中で必要とされ、広まっていくのだと思います。沖縄の辺野古問題は、一九四五年以降の米軍占領の時間軸で見れば、今に起こったことではありません。もともと、日本各地にあった米軍基地が、各地の住民による反対運動にあい、当時、米軍統治下にあった沖縄に集中的に移設されました。



沖縄・辺野古の海上で新基地建設反対の祈念を続ける鳴下上人

今、全世界で起きているテロをはじめるために、暴力の連鎖を断ち切るために、沖縄・辺野古の米軍という世界最強の武装集団に対する非暴力のたたかいは、国際的に大きな意味を持ち、武力によらず問題を解決するという、インドの独立運動に次ぐ善い例を世界に示し、各国の圧政に苦しむ民衆にとつて、一抹の希望となり得るものだと思います。

それはまた、己の変革なしには、世界の変革はあり得ないということわりのとおりです。今、世界は仏陀聖尊の教えを希求しています。今正にその時合掌



### 日蓮宗宗務院

宗務総長 小林順光 財務部長 中川法政  
 伝道局長 齊藤憲一 宗務総長室長 小林正雄  
 総務局長 塩崎望巳 現代宗務研究所長 三原正資  
 伝道部長 吉田見悠 参 与 山口裕光  
 教務部長 田中文教 参 与 吉田海心  
 総務部長 風間随修 日蓮宗新聞社長 草ヶ谷秀人

〒146 8544 東京都大田区池上一ー三二一ー一五  
 電話 〇三(三七五)七七八一  
 FAX 〇三(三七五)七七八六  
<http://www.nichiren.or.jp>

### 法華宗(本門流)宗務院

管 長 菅原日桑  
 宗務総長 二瓶海照  
 総務部長 金井孝顕  
 布教部長 久永晃顕  
 教学部長 三吉廣顕  
 財務部長 清水常光  
 企画部長 山田庸温

〒103 0013 東京都中央区日本橋人形町二一九一  
 電話 〇三(五六一)三〇五五  
 FAX 〇三(五六一)三〇五六

### 顕本法華宗宗務院

管 長 山本日恵  
 宗務総長 島田幸晴  
 宗務次長 秋葉敬真  
 財務部長 湯原純勇  
 庶務部長 津村乗信  
 社会部長 藤本智成  
 布教部長 小松正学  
 教務部長 湯原正純

〒606 0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一  
 電話 〇七五(七九二)七二七一  
 FAX 〇七五(七九二)七二六七

### 法華宗(陣門流)宗務院

管 長 門谷日悠  
 宗務総長 佐古弘文  
 総務部長 牧野秀成  
 教学部長 布施義高  
 教化部長 松吉慶憲  
 財務部長 金原孝宜  
 企画部長 今井満良

〒170 0002 東京都豊島区巣鴨五ー三五ー一六  
 電話 〇三(三九一)七二九〇  
 FAX 〇三(三九一)〇二二一

### 本門佛立宗宗務本庁

宗務総長 木村日覺  
 宗務副総長 亀井日魁  
 宗務副総長 西村日勲  
 教務局長 小西日演  
 弘通局長 植田日事  
 総務局長 小野山日将  
 広報局長 永江日盡  
 財務局長 岡田日秀治  
 奉賛局長 藤本日唱

〒602 8377 京都市上京区御前通二条上多東堅町一〇番地  
 電話 〇七五(四六一)一六六(代)  
 FAX 〇七五(四六一)五九九九

### 日蓮本宗宗務院

管 長 丹治日遠  
 宗務総長 加藤法夫  
 総務部長 原光明  
 財務部長 住友公亮  
 教務部長 工藤海淳

〒606 8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ノ法皇寺町四四八  
 電話 〇七五(七七二)三三九〇  
 FAX 〇七五(七七二)五九一四

### 法華宗(真門流)宗務庁

管 長 田仲日紘  
 宗務総長 堀智泰  
 総務部長 木村完祥  
 教学部長 堀内浩善  
 教化部長 加藤順昭  
 財務部長 上田泰源  
 社会部長 峰尾泉栄

〒602 8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上ノ紋屋町三三〇  
 電話 〇七五(四四一)五七六二  
 FAX 〇七五(四四一)五六六六

### 本門法華宗宗務院

管 長 松下日肆  
 宗務総長 藤井日靖  
 宗務部長 増田日雄  
 財務部長 吉村日彦  
 教務部長 土畑信教  
 庶務部長 高山岳隆  
 高邊晶啓

〒602 8418 京都市上京区寺之内通大宮東入大本山妙蓮寺内  
 電話 〇七五(四五二)三二二七  
 FAX 〇七五(四五二)三五九七

### 宗教法人 国柱会

賽主 田中壮谷  
 理事長 原田義彦  
 門連理事 森山真治  
 門連常任理事 藤本坦孝  
 門連理事 的場春奈  
 編集委員 (門連系外)

〒132 0024 東京都江戸川区一之江六一一九一八  
 電話 〇三(三五六)七二二(代)  
 FAX 〇三(三五六)九九八〇  
<http://www.kokuchukai.or.jp>

### 京都日蓮聖人門下連合会

会 長 松下日肆  
 副会長 伊丹日章  
 理事長 音羽隆全  
 副理事長 橋本一妙

京門連事務局  
 〒602 8418 京都市上京区寺之内大宮東入  
 妙蓮寺前町八七五 大本山妙蓮寺内  
 電話 〇七五(四五二)三五二七  
 FAX 〇七五(七五二)九三三八

### 日本山妙法寺大僧伽

首 座 吉田行典  
 責任役員 酒井天信  
 同 今井行康  
 同 池田行朗  
 同 二宮和嘉  
 同 木津博充  
 同 川岸行孝

日本山妙法寺大僧伽事務局  
 〒150 0045 東京都渋谷区神泉町八一七  
 電話 〇三(三四六)九三六三  
 FAX 〇三(三四六)九三六七

### 大阪日蓮聖人門下懇話会

理事長 佐藤哲夫 問 藤村恵容  
 副理事長 佐野貫順 問 門谷光瑞  
 顧 問 奥邨正寛 問 中村日游  
 顧 問 木下恵温 問 東孝信

〒530 0051 大阪府大阪市北区太融寺町六一十二 円頓寺内  
 電話 〇六(六三六)七六六四  
 FAX 〇六(六三六)七六六四

日蓮宗総本山 **身延山久遠寺**

〒409 2593 山梨県南巨摩郡身延町身延三五六七  
電話 〇五五六(六二)一〇一一  
FAX 〇五五六(六二)一〇九四

法主 内野 日総  
総務 井上 瑞雄

---

法華宗(陣門流)総本山 **本成寺**

〒955 0845 新潟県三条市西本成寺一〇一〇  
電話 〇二五六(三三)〇〇〇八  
FAX 〇二五六(三三)〇〇五九

貫首 門谷 日悠  
執事 笹原 壯玄  
執事 近藤 正義  
執事 五十嵐 昭文  
執事 西山 明仁  
執事 真保 行達  
執事 田邊 正明

---

本門佛立宗本山 **宥清寺**

〒602 8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町二〇五一  
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)  
FAX 〇七五(四六三)四六五一

住職 山内 日開  
二十五世講有  
執事 小野山 日住  
事務局長 奥 順作

---

宗祖御降誕靈場 日蓮宗大本山 **誕生寺**

宗祖御降誕八百年に向かつての祈り

〒299 5501 千葉県鴨川市小湊一八三  
電話 〇四(七〇九五)二六二一  
FAX 〇四(七〇九五)二〇五五

貫首 石川 日命

---

日蓮宗本山 **堀之内妙法寺**

やくよけ祖師  
日蓮宗本山

〒166 0013 東京都杉並区堀之内三二四八  
電話 〇三(三三三)六二四一  
FAX 〇三(三三三)五〇〇七

山主 山田 日潮

日蓮宗大本山 **池上本門寺**

〒146 8576 東京都大田区池上一一一一  
電話 〇三(三七五)一三三三  
FAX 〇三(三七五)三三三〇

貫首 菅野 日彰  
執事 金子 元彦  
役員 一同

---

法華宗(真門流)総本山 **本隆寺**

〒602 8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇  
電話 〇七五(四四一)五七六二  
FAX 〇七五(四四一)五六六六

貫主 田仲 日紘  
執事 本多 信正  
執事 永岡 悠希  
執事 足立 真正  
執事 笹木 研吾

---

京都八本山会

会本・本山 本満寺 貫首 伊丹 日章  
大本山 本園寺 貫首 伊藤 日慈  
大本山 妙顯寺 貫首 三田村 日正  
本山 立本寺 貫首 上田 日瑞  
本山 妙傳寺 貫首 野々垣 日祐  
本山 頂妙寺 貫首 安藤 日瑛  
本山 妙覺寺 貫首 及川 日周  
本山 本法寺 貫首 瀬川 日照

---

日蓮宗靈跡本山 比企谷 **妙本寺**

日蓮宗本山

〒248 0007 鎌倉市大町一一一五一一  
電話 〇四六七(二三)〇七七七  
FAX 〇四六七(二五)六九六七

貫首 早水 日秀  
執事 立野 正泰  
山務役員 一同

---

日蓮門下お題目初唱之靈場 日蓮宗本山東身延 **藻原寺**

日蓮宗本山

〒297 0026 千葉県茂原市茂原一二〇一  
電話 〇四七五(二二)三二五三  
FAX 〇四七五(二二)一一七三

貫首 持田 日勇  
総務 増田 寶泉  
執事 富永 一道  
執事 中川 貫泰

法華宗(本門流)大本山 **光長寺**

法華宗(本門流)大本山

〒410 0011 静岡県沼津市沼津市岡宮一〇五五  
電話 〇五五(九二二)〇四八四  
〇五五(九二二)〇七三六

貫首 石田 日信  
執事 久保木 学洋

---

本門法華宗大本山 **妙蓮寺**

本門法華宗大本山

〒602 8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五  
電話 〇七五(四五二)三五二七  
FAX 〇七五(四五二)三五九七

貫首 松下 日肆  
執事 音羽 隆全  
役員 一同

---

京都法華門流懇話会

京都法華門流懇話会

法華宗(真門流) 総本山本隆寺 貫主 田仲 日紘  
頭本法華宗 総本山妙満寺 貫首 山本 日恵  
本門法華宗 大本山妙蓮寺 貫首 松下 日肆  
法華宗(本門流) 大本山本結寺 貫首 菅原 日桑  
本門佛立宗 本山宥清寺 講有 山内 日開  
日蓮宗 本山要法寺 貫首 丹治 日遠  
法華宗(陣門流) 本山本禅寺 貫首 福井 日進  
頭本法華宗 本山寂光寺 貫首 大川 日仰

---

日興上人御聖廟 日蓮宗大本山 **富士山法華本門寺根源**

日興上人御聖廟  
日蓮宗大本山

〒418 0112 静岡県富士宮市北山四九六五  
電話 〇五四四(五八)一〇〇四  
FAX 〇五四四(五九)〇三〇三

貫首 旭 日重  
執事 川名 義顕  
参与 吉田 日綱  
参与 井野上 正文

---

徳川家康公報恩創建 日蓮宗由緒寺院 **瑞輪寺**

徳川家康公報恩創建  
日蓮宗由緒寺院

除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安

〒110 0001 東京都台東区谷中四二二五  
電話 〇三(三八二)四三七三  
FAX 〇三(三八二)七〇三三

貫首 井上 日修  
執事 稲荷 泰雅

頭本法華宗総本山 **妙満寺**

頭本法華宗総本山

〒606 0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一  
電話 〇七五(七九二)七二七一  
FAX 〇七五(七九二)七二七六

貫首 山本 日恵  
執事 吉永 義康  
執事 中村 英司  
執事 湯原 正純  
執事 土持 悠孝  
執事 鹿野 恒仁

---

多寶富士山 日蓮宗 **本山要法寺**

多寶富士山  
日蓮宗

〒606 8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八  
電話 〇七五(七七二)三三九〇  
FAX 〇七五(七七二)五九一四

貫首 丹治 日遠  
執事 加藤 法夫  
執事 原 光明  
執事 住友 亮  
執事 工藤 海淳

---

日蓮宗大本山 **清澄寺**

日蓮宗大本山  
日蓮聖人出家得度の霊場

〒299 5505 千葉県鴨川市清澄三二二一一  
電話 〇四(七〇九四)〇五二五  
FAX 〇四(七〇九四)〇五二七

別当 二宮 日敬  
執事 宮崎 雅宣  
役員 一同

---

日蓮宗大本山 **中山法華経寺**

日蓮宗大本山

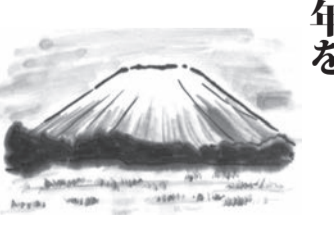
〒272 0813 千葉県市川市中山二一一〇一一  
電話 〇四七(三三四)三四三三  
FAX 〇四七(三三四)一七九六

貫首 新井 日湛  
参与 田代 浩敬  
参与 植田 観樹  
参与 吉田 文堯  
参与 中 貞奨

---

平成三十三年二月十六日は 宗祖御降誕八百年を迎えます

平成三十三年二月十六日は  
宗祖御降誕八百年を迎えます





# 門連時報

## 京都理事会開催さる

かに懇親を深め、最後に次期当番である本門法華宗大本山妙蓮寺音羽隆全執事長より次期開催のご案内、挨拶で京都理事会を終了した。

なお平成二十八年の京都理事会は十月二十六日の予定。第一会場本門法華宗大本山妙蓮寺・第二会場京都フラインホテルの予定である。

## 法華宗本門流事業報告

### ■布教機関誌『無上道』創刊八百号を迎える

平成二十七年八月、昭和二十四年一月の創刊より六十六年八月の期間を経て、布教機関誌『無上道』が八百号の記念号を創刊した。

時代の移り変わりに沿い、編集部に移転や印刷会社の変更などを伴いつつ、一度も休刊することなく発行されてきた同機関誌。同誌では創刊八百号が発行される平成二十七年八月に終戦七十周年を迎えることから、「戦争と平和」と題した特別企画を実行し、多数の寄稿文が寄せられた。

同機関誌は、宗務総長が発行人となり、編集長はじめ編集員その他は全国の僧侶が任命を受け、組織構成されている。毎月、印刷製本以外の全ての編集作業は宗内僧侶の手によって行われている。今後も檀信徒の信心増進のみならず、法華末信者の新たな道標となるような誌面を構成し、発行されていくことを願ってやまない。

▼『無上道』誌購読のご希望は法華宗（本門流）宗務院内、無上道編集部まで  
(〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-19-1 TEL 03-5614-3055 FAX03-5614-3056)



無上道



於：日蓮宗大本山 妙蓮寺  
平成二十七年十月二十七日

去る十月二十七日、日蓮宗大本山妙蓮寺にて日蓮聖人門下連合会京都理事会が開催された。約六十名の役員、理事各聖は正午に受付をし、本堂で法味の言上の後、龍華飛翔の庭園前で記念撮影を行った。大客殿に移動し妙蓮寺貫首三田村日正猥下による妙蓮寺の縁起、琳派四百年にあたり尾形光琳と妙顯寺の深い関係、九十三年にわたる貫首ご自身の戦争体験、妙顯寺との永い仏縁について語られた。

## ■大本山本興寺「信行勸学院」落成

平成二十七年九月三十日、兵庫県尼崎市大本山本興寺において、「信行勸学院」の落成慶讃法要が執り行われた。

当日は天候にも恵まれ、大本山本興寺小西日蓮猥下大導師のもと、各大本山御貫首猥下をはじめ宗門内外の僧侶、檀信徒約二百名が参列、盛大に法要が奉修された。

信行勸学院は、大本山本興寺の布教等を目的として境内地に建設された。当施設内には、隣接する僧侶養成機関、興隆学院専門学校の学生寄宿施設も備えられている。

信行勸学院の名称については、現在の宗門僧侶養成機関は興隆学院であるが、発祥は御開山日蓮聖人が本興寺境内に建てられた勸学院という施設より由来している。その名称を大事に継承し、なおかつ法華経の信仰には修行が大切であるという思いから信行として、信行勸学院という名称が付けられている。



信行勸学院

## 京都日蓮聖人門下連合会事業開催

### お会式法要奉行

京都日蓮聖人門下連合会主催のお会式法要が十月三日京都市上京区本山本堂で開催され僧俗約百人が参拝した。法要に先立ち午後一時より約二十名が参加し市中唱題行脚を行い、妙顯寺、妙覺寺、妙蓮寺の各本山を巡拝した。晴天に恵まれ参加者たちの団扇太鼓、唱題の大音聲が本堂に響きわたる中、お題目の功徳を上げた。

その後、本堂内で法華宗本門流大本山本能寺貫首菅原日桑猥下による「末法下種ごころ」の講題で法話が



出發行脚



法話



法要

## 大阪日蓮聖人門下懇話会

### 第二十三回合同御会式

午後三時より本法寺貫首瀬川日照猥下大導師、正副理事長脇導師、門下本山各貫首猥下ご臨席のもとにお会式法要を開式した。讃歎文では宗祖日蓮聖人の遺徳を偲び、法華経、お題目弘通のご生涯を讃えられ参拝者一同、ご報恩感謝のお題目を御宝前に捧げ、橋本一妙理事長の謝辞にてお会式法要を閉式した。

### 第二十六回研修会

研修会が本年一月二十五日、大東洋に於いて箕面公園昆虫館久留飛克明館長を講師に招き開催された。「昆虫とは」という講題で昆虫の様々な生態や昆虫館運営の苦労話をして頂いた。後、講師を囲んでの懇親会が開かれ会員との親睦を深めた。



行脚中

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成二七・六・二一	石丸日然	法華宗門流	顧問	就任	退任
平成二八・一・一一	伊丹日章	京都門下連合会	会長	就任	退任
平成二八・一・一一	山本日恵	京都門下連合会	副会長	就任	退任
平成二八・一・一一	伊丹日章	京都門下連合会	副会長	就任	退任
平成二八・一・一一	橋本一妙	京都門下連合会	理事長	就任	退任
平成二八・一・一一	音羽隆全	京都門下連合会	理事長	就任	退任
平成二八・一・一一	吉永義康	京都門下連合会	副理事長	就任	退任
平成二八・一・一一	橋本一妙	京都門下連合会	副理事長	就任	退任
平成二八・二・一三	菅原日桑	法華宗本門流	顧問	就任	退任

### ▼人事（事務局への連絡日を含む）

# ご家族と共に子孫に伝える信仰の証 日蓮宗全国五十七箇本山 御朱印めぐりセット

日蓮宗の本山五十七箇寺を巡り五十七紙の貫首さまの御首題に御朱印を拝受し巡る生涯忘れ得ぬ感動の旅を



※セット内容イメージ

監修 日蓮宗全国本山会

【セット内容】(箱入り)  
57本山貫首さまの御首題 57紙+白紙3枚 計60枚  
御首題携行帳 3帳(予備2帳)  
参拝案内カード 57種(最新地図・交通情報)  
手引書 1冊  
※参拝のワンポイント・団参コース等の案内

頒価 2,160円 (税込・送料別)

全国日蓮宗本山会監修

日蓮宗

本山

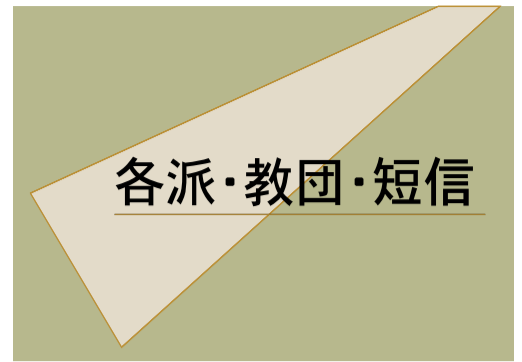
めぐり

頒価 3,240円 (税込・送料別)

「全国五十七本山めぐり」完全対応・必携の書。

日蓮宗五十七本山の伝記と歴史の旅案内。幾星霜、信仰を支えてきた緑に映える伽藍の偉容、日蓮聖人とお弟子たちの歴史への旅案内。





国柱会

九月一日、月日天国禱。三日、日蓮聖人門下連合会機関誌編集委員会(於、日蓮宗宗務院)に森山真治編集委員出席。十二日、龍口法難会慶讃法要。御聖日集会担当、森山講師補。十三日、中央連合協議会申孝園掃奉仕。十七日、恩師忌。常勤給仕。二十二日、各局輪番常勤給仕。二十三日まで。二十三、妙宗大靈廟秋季彼岸大供養会。二十八日、日蓮聖人門下連合会常任理事会(於、日蓮宗宗務院)に森山常任理事出席。二十九日、「明治の日」実行委員会(衆議院第二議員会館)に森山実行委員出席。

日本山妙法寺

一月九日、恩師行勝院日蓮聖人第三十一回忌追孝報恩法要を静岡県熱海道場にて厳修。

当、山田友重講師。「明治の日」を実現する集い(於、憲政記念館)開催。十二日、昭和天皇記念館(立川市)開館十周年記念式典・特別見学会(昭和聖徳記念財団主催)に賽主出席。十四日、全国定例協議員会。妙宗大靈廟各局輪番常勤給仕(十五日迄)開催。十五日、妙宗大靈廟例月供養会。十六日、恩師田中智学先生御遺夜法要。式後、追憶の集い開催。十七日、第七十七遠忌恩師田中智学先生報恩大会。三十日、日蓮聖人門下連合会機関誌編集委員会(於、日蓮宗宗務院)に、森山編集委員出席。(森山真治)

日蓮宗

日蓮宗は妙蓮尊儀の第七百五十遠忌法要を九月十五日に大本山誕生寺で内野日総管長親下を導師に迎え、宗門法要として営む予定。また前日の十四日には両親闍妙蓮寺で墓前法要も営む予定。

三月未定、理事会(妙蓮寺)。四月二十八日、立教開宗会(横川定光院)。五月未定、理事会(妙蓮寺)。八月二十七日、第五十二回夏季大会(本能寺文化会館)。八月二十七日、理事会(本能寺文化会館)。九月三十日、お会式奉行委員会(妙蓮寺)。十月一日、お会式(妙蓮寺)。十月未定、理事会(妙蓮寺)。十月二十六日、京都理事会(妙蓮寺・ブライトンホテル)。十二月未定、理事会・忘年会。十二月未定、会計監査。(橋本一妙)

頭本法華宗

九月二日、千葉東葉市緑区五日堂において、東部連合会先師法要及び僧員講習会が行われた。

三月四日、興隆学林専門学校の平成二十七年卒業式が行われる。行学二道に励んだ学林での経歴を糧に、卒業生は新たな布教の第一線に立つ。当校は他門流・一般信徒の入学も受け入れ、現在通学中。平成二十八年度の新入生を募集中(※)。三月十一日、東日本大震災慰霊法要奉修(岩手県)。※各会への聴講希望、学林への入学希望等、問い合わせは宗務院(03-5614-3055)まで。(宮村光明)

本門法華宗

十月十二日、大本山妙蓮寺(松下日肆貫首)に於いて、宗祖日蓮聖人御会式法要を厳修。

寺に於いて、東山末生流いけばな展開。十一月二十四日、総本山本隆寺に於いて、天台大師御正當会奉修。十二月十四日、十五日、「平成二十七年定期宗会」開催。平成二十八年年度歳入歳出予算案、権大僧正推薦等の議案について審議。一月一日、八日、総本山本隆寺に於いて、年頭国禱会・法華八講開催。(森田量哲)

日蓮聖人門下連合会

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡協力、団結を強化することを目的とする。

- 目的
●事業
●加盟団体
●本部
●各局
●海外
●その他

十月一日、月日天国禱。五日、日蓮主義講習会開催。十日、佐渡法難会慶讃法要。御聖日集会担当、田中いく子講師。十二日、池上屋外宣伝。日蓮聖人御遺夜法要厳修。十三日、聖祖鶴林会報恩大法要厳修。十七日、恩師忌。常勤給仕。各局輪番常勤給仕。十八日、妙宗大靈廟例月供養会。二十四日、第五十一回身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団二十五日まで厳修。二十七日、日蓮聖人門下連合会京都理事會(於、日蓮宗大本山妙蓮寺)に田中壯谷賽主出席。十一月一日、月日天国禱。三日、明治節慶讃法要。明治神宮参拝。七日、本部理事会。十日、本部監査。「今こそ憲法改正を!」万人大会(美しい日本の憲法をつくる国民の会主催。於、日本武道館)に賽主出席。十一日、日蓮聖人小松原法難会慶讃法要。御聖日集会担当

三月未定、理事会(妙蓮寺)。四月二十八日、立教開宗会(横川定光院)。五月未定、理事会(妙蓮寺)。八月二十七日、第五十二回夏季大会(本能寺文化会館)。八月二十七日、理事会(本能寺文化会館)。九月三十日、お会式奉行委員会(妙蓮寺)。十月一日、お会式(妙蓮寺)。十月未定、理事会(妙蓮寺)。十月二十六日、京都理事会(妙蓮寺・ブライトンホテル)。十二月未定、理事会・忘年会。十二月未定、会計監査。(橋本一妙)

三月四日、興隆学林専門学校の平成二十七年卒業式が行われる。行学二道に励んだ学林での経歴を糧に、卒業生は新たな布教の第一線に立つ。当校は他門流・一般信徒の入学も受け入れ、現在通学中。平成二十八年度の新入生を募集中(※)。三月十一日、東日本大震災慰霊法要奉修(岩手県)。※各会への聴講希望、学林への入学希望等、問い合わせは宗務院(03-5614-3055)まで。(宮村光明)